

# キャンパス点描 — 創立 140 周年記念式典・記念

2015年11月29日(日)にお茶の水女子大学創立140周年記念式典が盛大に挙行されました。記念式典は、文部科学省事務次官をはじめ各界から多くの来賓を迎え、伝統の息づく徽音堂で厳粛に執り行われました。



土屋 定之 文部科学事務次官



永田 恭介 筑波大学長



Catherine Florentz 氏  
(ストラスブール大学副学長  
研究及び博士課程担当)



内田 伸子 桜蔭会会長

はじめに、文教育学部芸術・表現行動学科音楽表現コース合唱団による校歌斉唱があり、室伏きみ子学長が式辞を述べられました。その後、文部科学大臣ご祝辞(土屋定之文部科学事務次官代読)を賜り、続いて、永田恭介氏(国立大学法人筑波大学長)、Catherine Florentz氏(ストラスブール大学副学長)、内田伸子氏(桜蔭会会長)からご祝辞をいただきました。

その後、名誉学友記・感謝状贈呈が行われました。これは、本学の発展に関して多大なご支援をくださった方々に、感謝を申し上げることを趣旨に平成16年に設けたものです。

また、名誉博士称号授与では、遠山敦子氏、中谷陽一氏、Marie-Claire LETT氏に名誉博士称号が授与され、一言ずつ、ご挨拶をいただきました。名誉博士号は、学術文化の発展、国際的文化交流について特に顕著な貢献があった方、本学の教育研究の発展に関して、その功績が特に顕著であった方などに授与させていただきます。

さらに、本田和子名誉教授(本学元学長)から「140年のあゆみを振り返る」と題して特別講演を賜りました。講演終了後、卒業生をはじめとする式典参加者には、感動で涙を流す姿が見られる

ほどの、大変貴重なお話を聞かせていただきました。

小春日和の穏やかな初冬の日、記念式典はつつがなく執り行われ、140年の歴史と伝統を踏まえ、次の140年へと新しい歩みを刻む記念すべき日となりました。

式典に先立って前日の11月28日に行われた記念事業は、午前の部と午後の部に分けて開催されました。午前の部では、室伏きみ子学長の挨拶にはじまり、本学歴史資料館担当から本学の歴史について紹介がありました。続いて、本学宮尾教授から法人化後10年記念冊子について紹介がありました。その後、外山滋比古名誉教授による「未来をひらく」と題する特別講演をいただきました。

特別講演では、「お茶の水女子大学」という平仮名と漢字の絶妙なバランスの名前のお話から始まり、人文科学の学問に対するエール、研究における触媒という作用の重要性など、記憶に残るご講演をいただきました。

引き続き、本学の在学生による「次世代の研究者を目指して」と題したミニパネルディスカッションが行われ、盛大な拍手の中で午前の部が終了しました。



遠山 敦子氏



中谷 陽一氏



Marie-Claire LETT氏



校歌斉唱



本田 和子 名誉教授 (本学元学長)



室伏 きみ子 学長

午後の部では、本学経営協議会委員、日本科学未来館館長の毛利衛氏による「Challenging the Unknown」と題する特別記念講義をいただきました。

講義では、宇宙やエンテバー号の映像を見ながら、宇宙飛行士としての体験談を交えて科学技術の進歩についてお話をくださいました。また、室伏学長の示す大学の方向性に共感しつつ、「お茶の水女子大学にしかできないところまで教育水準を高めて欲しい」と激励をいただきました。講義に参加した本学在学生や一般来場者との間で活発な質疑応答が行われ、熱気のある特別記念講義となりました。

その後、文教育学部芸術・表現行動学科音楽表現コース及び舞踊教育学コースの学生による「音楽と舞踊によるパフォーマンス」が行われ、美しいピアノの音色と幻想的な舞踊に酔いしれました。

終了後、感動した、内容の濃いお話だったという声が多数寄せられました。教職員、在学生、卒業生などが相俟って、すばらしい時間を共有することができ、創立140周年記念事業は大盛況のうちに幕を閉じました。



外山 滋比古 名誉教授



毛利 衛氏



大学校旗

## キャンパス点描